

2005年度 社団法人福江青年会議所 理事長所信

理事長 山里 一郎

五島市が誕生して一年目のこの年に栄光ある社団法人福江青年会議所第41代理事長を勤めさせていただくことを誠に光栄に思うと同時に、その責任の重さを痛感しております。

さて、現在の私たち社団法人福江青年会議所、そして合併後間もない五島市を取り巻く状況はどうでしょうか？

- ・ 日本全体では回復基調と言われているが、まだまだ厳しい経済状況
- ・ 合併後も厳しい五島市の財政状況
- ・ 地域社会で多発している青少年に関する諸問題
- ・ 長引く不況の影響による青年会議所会員数の減少

このような決して明るいとはいえない状況の中、私たち社団法人福江青年会議所は何をすべきでしょうか？そして何が出来るでしょうか？

2005年度社団法人日本青年会議所の会頭をする高竹和明君は、青年会議所の事業目標や存在意義について“社会と人間の開発”であると言っていますが、私も同じような思いを持っております。青年会議所は過去を振り返ってみても政治、経済、地域において最も多くの優れた人材を送り出してきた団体です。私は青年会議所が果たすべき最大の役割は、地域社会のリーダーを生み出す機関として、そして日本最大の青年の学び舎としての機能を十分に発揮し、地域に貢献できる人材を育成することだと考えます。

このような基本理念の下、2005年度41年目を迎える社団法人福江青年会議所は次の項目を基本方針として運営していきたいと考えております。

基本方針

1. 地域社会とのつながりをさらに緊密なものとし、五島市に欠くことのできない存在としての存在感を示す
2. 日本最大の青年の学び舎として会員の人間力開発に積極的に取り組み、地域に貢献できる人材を育成する
3. 本気で事業に取り組んだ達成感をメンバー同士で分かち合い、友情を深める

ここに掲げた基本方針は改めて示すまでもなく、私たちが日ごろ聞き慣れている JC 三信条 修練、奉仕、友情 そのものであります。ところが、この従来から継承している基本的な運動を「決められたもの」としてではなく、現状を打ち破る気概を持って進化させていくことが今の混沌とした時期に福江青年会議所に求められているものだと私は考えております。

現在、福江青年会議所は会員数の減少という大きな問題に直面しております。この大きな問題に対して私たちは今まさに諸先輩方の作られた歴史に感謝し、誇りを持ってひとりでも多くの青年に「JC 運動のすばらしさを伝えなければなりません。そしてこのすばらしい運動を理解してもらわなければなりません。五島市に欠くことのできない福江青年会議所に入会したいと考える若者が増えることを信じたいと思います。

40 周年という区切りを過ぎ、41 年目はもう一度初心に戻り、ここからまた新たな歩みを始めて行きたいと思えます。何となく「決められたもの」になっている自分自身や周囲の環境に挑戦する気概を忘れず、2005 年度は本気で取り組んで行きます。

JC 活動を通じてメンバーが地域社会に貢献し、自身の人間力を向上し、そしてメンバー間の友情をより確かなものにできる一年にしたいと考えています。皆様のご協力をよろしく願います。

2005 年度 (社)福江青年会議所 スローガン

ブレイク スルー
Break Through 自己の殻を打ち破り、新たな自身に挑戦しよう